地元住民を対象に自然観察会

マップ教材にマツバウンランや鳥の巣など

環保協

五月七日、当協会は、活動拠点（広島市中区広瀬北町）に面した天満川周辺で『自然観察会』を開催した。これは、地元の広瀬北町一区町内会の住民を対象に、社会貢献活動の一環として初めて開催したもので、親子連れなど三十人が参加し、植物や野鳥の観察を楽しんだ。

ヒナギキョウを観察する参加者（背面は当協会の建物）

当日は、植物や野鳥に詳しい当協会職員が講師役を務め、先頃発行した『環保協（かんほきょう）発　天満川・自然観察&ウォーキングマップ』を教材に、約一・五キロメートルのコースを二時間かけて歩いた。

最初に観察したのは、スタートして間もない場所にあったスズメの巣。巣は、黄色い電線カバーの中に作られており、参加者は意外な場所にある巣を見て一様に驚いていた。

その後は、予定したコースを歩きながら、マップに掲載してあるアラカシ・ケヤキ・クスノキ・ノイバラ・シロツメクサ・キョウチクトウ・マツバウンラン・ヒナギキョウなどの植物を観察し、その名前のいわれや特性について学んだ。

また、野鳥については、残念ながらチュウシャクシギなど数種類しか観察することができなかったが、その中で参加者が興味を持ったのは、木の枝だけではなく針金のハンガーが使われていたカラスの巣。都市部ならではの光景に、参加者は双眼鏡を使って真剣に観察していた。

参加した広瀬北町一区町内会長の吉森巌さんは、「とても良い企画をしてもらいみんな喜んでいた。できれば季節ごとに開催してもらいたい」と感想を述べていた。

当協会では、教材として使用したマップを近隣の中学校や小学校に寄贈したほか、地元の住民に配布している。日常の中で活用してもらい、利用者の声を参考にしながら今後の企画を考えたい。（総務課）

第50回環境保健夏季大学

【日　時】平成23年7月7日（木）～8日（金）　1日目：開始13：00～　2日目：終了15：00
【場　所】グリーンピアせとうち（呉市安浦町三津口326-48）　TEL 0823-84-6624
【対象者】①市町公衛協役員及び事務局担当者で、これまでの夏季大学への参加が5回未満の方。
②市町公衛協事務局活性化事業を実施する公衛協の事務局員および機能リーダー
③研修内容を考慮し、適任と思われる公衛協関係者の方

【プログラム】
〈1日目〉夏季大学50周年記念フォーラム
「公衛協の歴史といま～時代のニーズを捉えた活動に向けて」
〈2日目〉
・平成23年度全県共通事業重点メニュー紹介
・1万人の食チェック事業　おたのしみ抽選会
・講演「広島県が進める健康づくり県民運動」～わたしたちにできること（仮）～
講師：広島県健康福祉局長　佐々木　昌弘氏

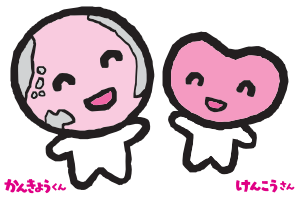
昨年のエコトークショーの一幕

健康感謝募金
～地区衛生組織活動資金募集～
市町別一覧表
（平成23年5月末現在）

市町名	募金額（円）	達成率
呉市		
府中町 海田町 熊野町 坂町		
江田島市		
竹原市 大崎上島町		
大竹市 廿日市市 廿日市市佐伯 廿日市市吉和 廿日市市大野 廿日市市宮島	1,785,000	116.3
安芸太田町 北広島町 安芸高田市		
東広島市		
三原市 世羅町	1,388,851	64.8
尾道市		
福山市		
府中市 神石高原町		
三次市		
庄原市		
その他	81,007	―
合計	3,254,858	9.1

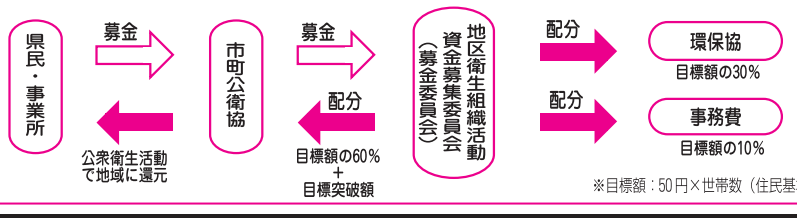
※この表は、5月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

健康感謝募金総額
3,254,858円



健康感謝募金は、昭和35年から実施し、平成23年度で52回目を迎えます。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

【健康感謝募金Q＆A】
Q：健康感謝募金ってどのように集められ、管理されているの？
A：健康感謝募金は次のような手順で募金委員会に集められ、記録、配分を行い、公衛協活動に活用されています。



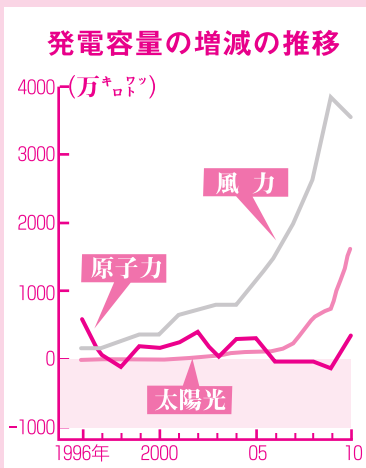
※目標額：50円×世帯数（住民基本台帳による）

News ファイル　4/1～5/31

◆再生エネルギー原発を逆転

米シンクタンク「ワールドウォッチ研究所」によると、原発は、安全規制が厳しくなったことや建設費用の増加で1980年代後半から伸び悩み、2010年の発電容量は3億7,500万kW。

一方、再生可能エネルギーは地球温暖化対策で注目されて急激に増加し、風力と太陽、バイオマス、小規模水力の合計は3億8,100万kWになり、初めて原発を上回った。



※前年比、ワールドウォッチ研究所による

報告書は、福島第1原発事故の影響で廃炉になる原発が多くなり、新設は大幅には増えず、再生可能エネルギーとの差はさらに開くとみている。

報告書によると4月1日現在、世界で運転中の原発は30カ国で437基。運転開始から平均で26年が経過し、このうち145基は、2020年までに運転開始から40年を迎える。福島第1原発事故の影響で、40年を超えて運転する原発は限定的になるとみられるという。建設中は14カ国で64基。中国などで今後、新たに建設される分を見込んでも、世界の原発の総数は減少するという。

報告をまとめたマイクル・シュナイダー氏は「原子力ルネサンスで原発が増えると思っていたら、それは間違い。40年を超える運転を認めても、いずれ数は減ることになる」と指摘している。世界の総発電量は、石炭、天然ガス、石油などの火力発電が半分以上を占め、原発は13%程度。（4／17）

◆CO2排出　09年度　5.6%減

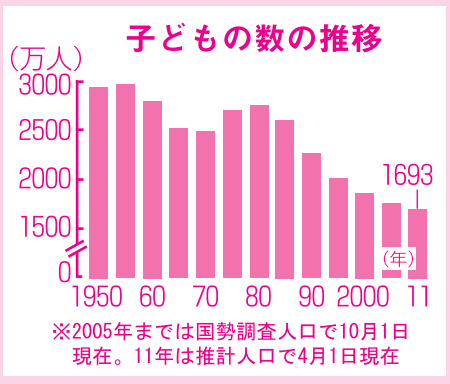
環境省は、2009年度の国内の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素（CO2）換算で08年度比5.6%減の12億900万トンだったとする確定値を発表した。景気後退などが主な要因。減少は2年連続で、排出量は1995年度以降で最も低かった。

温室効果ガスの削減目標を定めた京都議定書の基準年である1990年度比では4.1%減。日本は08～12年度平均で6%減の目標を達成するため、森林吸収や海外からの排出枠購入を合わせた5.4%分を、削減量に算入する方針だ。

部門別のエネルギー起源CO2排出量は、商業やサービスなど業務部門が08年度比7.8%減、工場など産業部門が7.3%減、家庭部門が5.5%減、運輸部門が2.4%減などだった。（4／27）

◆子ども30年連続減

総務省が発表した推計人口（4月1日現在）によると、日本の子どもの数（15歳未満人口）は、前年比9万人減の1,693万人で、比較可能な1950年以降、30年連続で減少した。全人口（約1億2,797万人）に占める子どもの割合も、前年比0.1ポイント減の13.2%となり、37年連続で低下した。

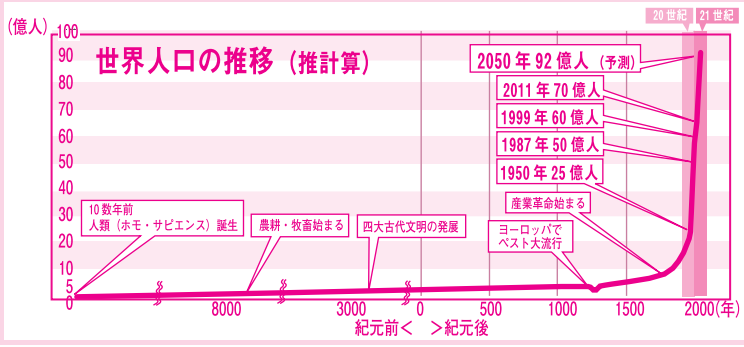


※2005年までは国勢調査人口で10月1日現在。11年は推計人口で4月1日現在

男女別では、男子が868万人、女子が825万人で、女子100人に対する男子の数は105.2人だった。年齢別では、中学生（12～14歳）が359万人、小学生（6～11歳）が684万人、3～5歳は324万人、0～2歳は325万人だった。

一方、国連人口統計年鑑（2008年版）で人口4,000万人以上（推計時点が00年以降）の国と比較すると、総人口に占める子どもの割合は、ドイツ13.5%、イタリア14.1%、韓国16.2%、中国18.5%、米国20.1%などで、日本は最低水準だった。（5／3）

◆世界人口70億人突破か

国連は、世界の人口が今年10月末に70億人に達し、2050年末までに93億人、2100年までには101億人を超えると予測する「世界人口推計2010年改訂版」を公表した。人口増が見込まれるのはサハラ砂漠以南のアフリカ39カ国や、パキスタンなどアジア9カ国、ボリビアなど中南米4カ国。

一方、日本は70年までに1億人を割り込み、2100年には9133万人になるものの、平均寿命は男性が89歳、女性は95.7歳まで延びると予測している。（5／8）